FLPS
Fuzoku Lounge for Practical Studies

ふぞく研究ラウンジ no.5

発行：2019.12.15
編集：鳥取大学附属学校部

「ふぞく研究ラウンジ」では鳥取大学附属学校４校園が取り組んでいる教育研究の「今」をお知らせしています。第５号では附属小学校と附属幼稚園の研究についてご紹介します。

附属４校園では「いま伸びする力とあと伸びする力を育てる」を共通の研究テーマとしています。今まさに成長しているという確かな手応え、そして未来においても成長できる礎を築くこと。子どもたちの今と未来を見つめて、各校で研究を推進しています。

皆様からのご意見やご感想をお聞かせください。

附属小学校

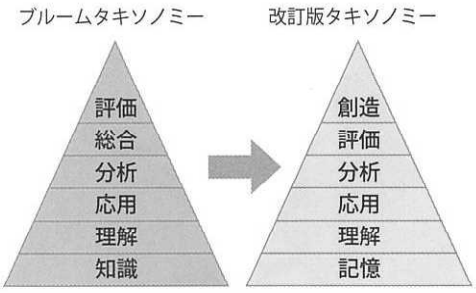
研究主題

未来へつなぐ教科 領域の授業づくり(3)

研究の概要

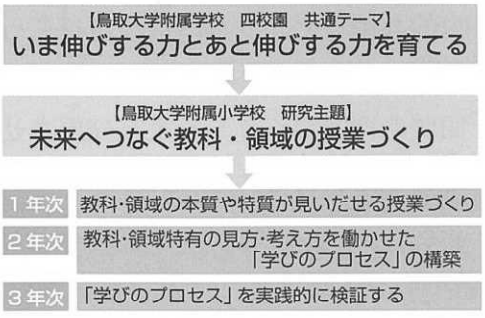
1 これまでの取組

Industry4.0 や Society5.0 といった社会構造が到来しつつある現代において、今の子供たちが将来大人になって働く頃には、職業や仕事内容など、現在、当たり前である環境が大きく変わっていることが予想されます。このような背景から、未来を生きる子供たちに対して、学校教育で育成すべき資質や能力も今までとは異なる視点をもつことが重要であると言えます。文部科学省（2015）は、ブルームが提唱した教育目標の分類学「ブルームタキソノミー」を改訂した「改訂版タキソノミー」の必要性を指摘しています（図Ⅰ-1）。この「改訂版タキソノミー」では、教育の最上位に位置づけられるのは自分の力で創造していく力であることを示していると捉えることができます。正解のない課題に出合ったときに、粘り強く向き合い、多面的に捉えながら協働的に解決策を見出すことができる資質・能力の育成を目指し、今の子供たちにとって必要な学びの在り方を追求していく授業づくりを目的とし、本主題を設定しました（図Ⅰ-2）。



図Ⅰ-1　ブルームタキソノミーと改訂版タキソノミー

１年次の研究では、「教科・領域の本質をどのように授業として実現したらよいのか」ということについて取り組みました。２年次の研究では、教科・領域の本質に迫る「学びのプロセス」をどのようにたどればいいのか、学習の目標をどのように達成していくのかなど、学びのプロセスに着目して取り組み、仮説的な「学びのプロセス」を分析し、考察しました。しかし、評価の結果が子供たちの具体的な学習改善につながっていなかったことや研究を通して目指す子供像が明確でなく、子供の姿を通した評価の応用的利活用というところに課題が残りました。３年次である本年度は、「子供の学びは学習過程にこそ存在する」という考えのもと、子供の成長する姿をどう捉え、評価すればよいのかということに視点を当てて取り組んでいます。



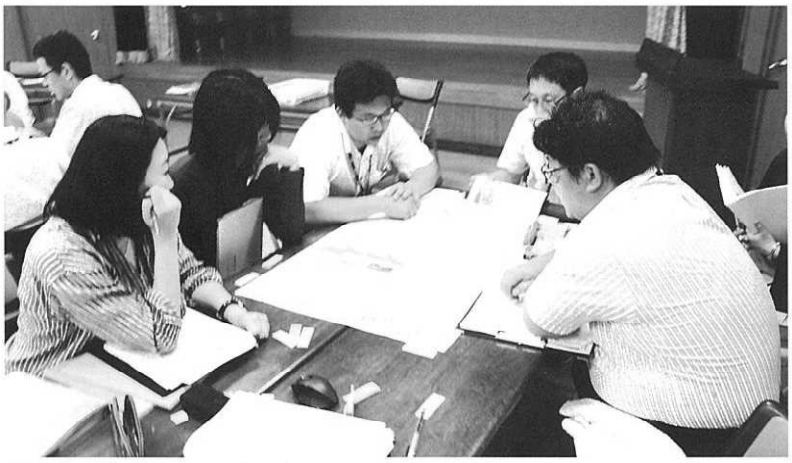
図Ⅰ-2　１年次～２年次の研究の柱

② 本年度の取組（3年次）

自主研修：模擬授業の様子

3年次である本年度は、各教科・領域特有の見方・考え方を働かせた「学びのプロセス」の効果を実践的に検証し、本校におけるスタンダードの在り方を提案していくものです。構築した学びのプロセスを通してどのように子供の学びに生かされたのか、また、どのように子供が変化したのかを見取ることで質的に、また継続的に研究の検証を行うこととしました。「子供の学びは学習過程にこそ存在する」という考えのもと、我々の目の前で実際に表出している具体的な子供の姿という事実から研究の評価を見いだしていくことを各教科・領域において共有化しました。そして、学びのプロセスの検証と子供たちの徐々なる変化を見取るための評価の在り方の実現のために、職員研修を重ね、共同研究者の先生方と連携し研究の充実に努めました。

評価の在り方についての協議　於：鳥取大学



「学びのプロセス」の検討会

共同研究者参加型研修

③ 研究の今後

今後は、「学びのプロセス」を位置づけた授業を学習した子供の変化から、各教科・領域の特質を踏まえた評価方法を考察し、今回の学習指導要領改訂で提示された3つの観点別学習状況の評価「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」についての評価規準を確かなものにしていくことが必要であると考えます。一つ一つの授業の子供の変化を、あるいは単元や学習領域全体を通しての子供の変化を見取りながら分析していくなど、ミクロ的な視点とマクロ的な視点をもって検証を進め、「未来へつなぐ教科・領域の授業づくり」をより発展させていきたいと考えます。

附属幼稚園

研究テーマ

「いま伸びする力」と「あと伸びする力」を育てる

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点として～

① はじめに

園外保育「麦畑で」

本園は、創立以来、大切にしてきた子どもたちの主体性と「遊びは学び」であるという基本をもとに、保育と研究実践の充実をめざし取り組みを推進しています。

新しい幼稚園教育要領等には、幼児教育の基本は変わらないものの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されるなど、子どもの育ちや学びを見取る保育者の力がこれまで以上に求められています。また、何をどのように学ぶのかが問われており、幼児期の育ちや学びを豊かにしていく援助の在り方やその学びのつながり、その記録と発信などの在り方について考えることが求められていると言えます。

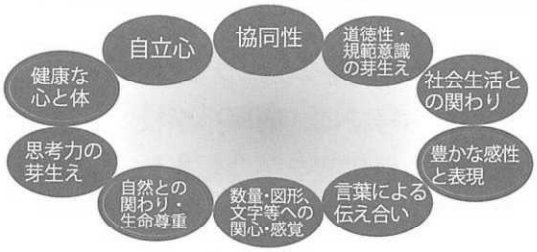
そこで、本園ではこれまでの研究の成果と課題を踏まえ、研究テーマを「『いま伸びする力』と『あと伸びする力』を育てる～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点として～」として本年度の研究を進めています。

② 研究目的・研究方法

研究にあたっては、次の２点を主な目的とし、研究の実際として、ドキュメンテーションの作成、保育カンファレンス等により、次の指導に生かしたり、指導の評価の妥当性を高めたりするようにしています。

(1) 遊びを振り返って指導の評価を行い、次の実践に生かす。	(2) 幼児理解に基づいた指導の評価の妥当性を高める。
①ドキュメンテーションを作成し、子どもの姿、保育者の援助や環境の構成をまとめる。 ②ドキュメンテーションを基に、その時期らしい子どもの育ちや学びを評価する視点、保育者の振り返りにつながる視点を立て、指導を振り返る。 ③保育カンファレンスを行い、個々の保育者が見取った学びについて話し合う。 ④ドキュメンテーションと保育カンファレンスを基に、再構成し、指導を振り返る。 ⑤個々の子どもの記録の方法案を出す。	①3, 4, 5 歳で共通して収集する遊びを決め、ドキュメンテーションにまとめる。 ②3, 4, 5 歳で注目する「10の姿」の視点を決め、遊びの様子をドキュメンテーションにまとめる。 ③①と②でまとめたドキュメンテーションを、3, 4, 5歳の遊びを表にまとめ、発達段階に沿った遊びとなっているか検証する。 ④実践や指導の評価を基に、「発達区分に沿って整理した子どもの姿」と「発達区分に沿って整理した保育者の援助、環境の構成」に加筆・修正を加える。

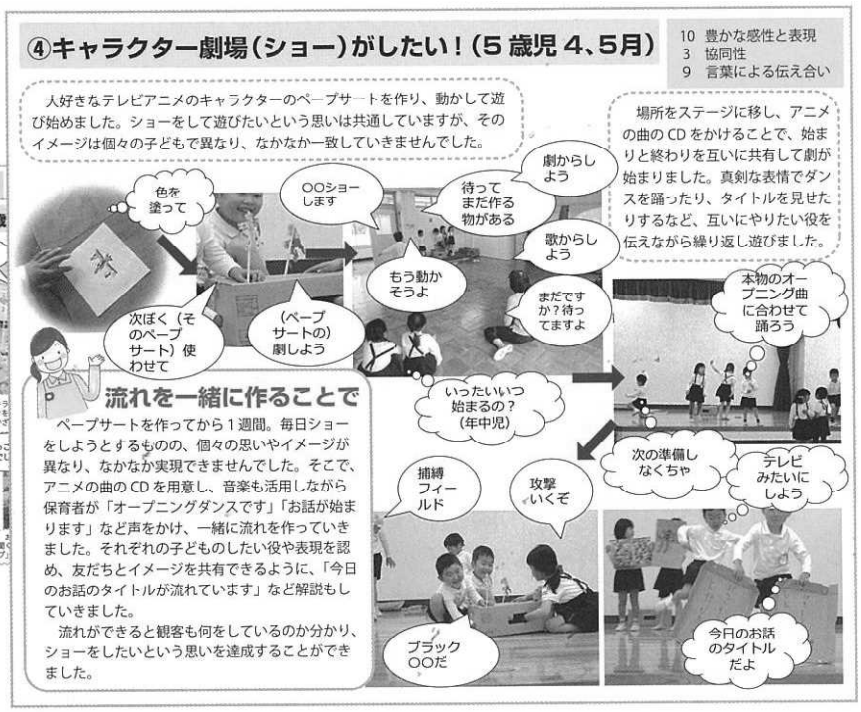
③ 研究の実際



本年度は、これまでの取り組みを継続・充実するとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の「健康な心と体」「自然とのかかわり・生命尊重」「豊かな感性と表現」の３つの姿に着目して重点的に研究を行っています。

ここでは、①**３つの視点を中心とした「ドキュメンテーション」の作成**　②ドキュメンテーション（平成２９年度～）を分類・整理→**各年齢の遊びの姿や子どもたちの学びのつながりは発達段階や実態に合っているか、保育者の援助や環境の構成は適切であるか等の検証**について紹介します。

「豊かな感性と表現」の視点でのドキュメンテーション



つながりの検証

10 豊かな感性と表現（ごっこ遊びに関して） ★マークは身体表現・音楽と重複しているもの

	3歳		4歳		5歳	
	4-9月	10-3月	4-9月	10-3月	4-7月	9-3月
ドキュメンテーション事例	①(4月)お店屋さんごっこ ④(5月:R1)段ボールのバスごっこ	⑨(11月)レストランごっこ ⑩(11月)落ち葉を集めて ⑪(11月)ステージごっこ★ ⑫(12月)わたしもかけるよ ⑬(1月)ゆうびんやさんごっこ	②(6月)工場作り	⑤(10月)積み木でごっこ遊び ⑧(12月)板積み木のかまどでバーベキュ	②(4・5月:R1)キャラクター劇場（ショー）がしたい！★	⑦(11月:H29)旅行ごっこ
表現の種類	イメージする ①レストランやお店を想像し、お店の人 思い出す ④バスに乗 メージす 演じる（なり ①お店の人の役になる ④バスの運転手や車掌役、お客	イメージする ⑨レストランを想像し、お客や ⑫食べ物をイメージする	イメージする ②工場の様子を思い浮かべ、作 けながら思いを伝え合う	イメージする ⑤おうちの様子や病院の様子を 友だちに考えを伝える	イメージする ②テレビアニメのキャラクター ②自分のしたいことやイメー	イメージする ⑦家族の出張や旅行の様子をイ 6) 役になりきる を伝える 、何を持ってい 作る・描く・塗る

平成29年度から3年間のドキュメンテーションを表にして振り返り、
子どもたちの学びのつながりが妥当なものとなっているか検証しています。

4 今後の取り組みについて

本年度を含む3年間を目途に、すべての視点における遊びの姿や子どもたちの学びのつながりについて検証することとしています。そして、遊びの内容や保育者の援助、環境の構成のあり方等について見直しを行っていくことで、本園における評価の妥当性・信頼性を高め、さらなる遊びの充実を図っていきたいと考えています。

◆詳細については、附属幼稚園までおたずねください◆

池畔好日

■「ふぞく研究ラウンジ」第5号をお届けします。本号では、附属小学校と附属幼稚園における教育研究を紹介しました。■幼稚園教育要領がすでに完全実施となり、小学校学習指導要領が来年度から完全実施されるこの節目に、それぞれの校園が、これまでの教育実践を踏まえ、新しい要領等をどのように捉えて、どのような取り組みを行っているか、ご覧いただければ幸いです。■先日、鳥取県教育委員会と私たち附属学校部との間で年一回行っている、連絡会が開催されました。席上、幼・小・中の連携・接続はどのように進んでいるか質問がありました。そのとき、私たちは「幼・小・中一貫型教育」を実現すべく接続プログラムの開発を行っていると回答しました。■今後は、接続プログラムをはじめとする、いま実施しつつあるカリキュラムの上でのさまざまな工夫等を、随時ご紹介したいと思っています。